

## 寄稿

都市につくられた自然 **ビオトープ** 現場からの報告

# 一之江境川親水公園物語

いちのえさかいがわ  
しんすいこうえん  
ものがたり

(財)江戸川区環境促進事業団 施設課・鈴木弘行

### はじめに

『生き物と共生する地域づくり』をめざして、各地でさまざまな緑空間が創造されています。江戸川区に平成8年4月に全線オープンした一之江境川親水公園も、ビオトープと位置づけられる空間として整備されましたが、その管理運営には疑問点や問題点も多く、試行錯誤の毎日です。そんな、行政担当者の日々の思いを報告させていただきます。

## ～時代のニーズと行政の思惑～

### 「野の川」の再生

江戸川区は全国に先駆けて、1973年に古川親水公園を誕生させました。その後、この親水公園事業は全国に広まり、親水公園はすっかり市民権を得たと言えます。

1982年に区内2番目の親水公園・小松川境川親水公園が古川親水公園の経験を生かし造成されると、ますます親水公園先進都市・江戸川区の名が全国に広まり、日本のみならず諸外国からの視察団もあるほどです。しかし、江戸川区がそうしてしまったせいか、親水公園というと「緑に囲まれた流れるプール」の感があります。

実際、古川も小松川境川もその水質管理はプール並みで、安全で快適な空間として根強い人気があります。しかしながら、「魚は居ないの?」「ザリガニは?」との意見も一部に聞かれ、行政側としても生物

(魚類)の生息空間としての可能性も、かなり前から探っていました。水のシーズン以外は水路に入る利用者はほとんど無くなるので、塩素による消毒をする必要も無くなります。そこでオフシーズンにコイや金魚を実験的に放流したりもしましたが、この段階ではビオトープと言うより「池の鯉」の域を出ていなかったといえます。

そんな中、区間最後の親水公園・一之江境川の計画が始まりました。一之江境川は区の中心部を流れる全長3.2kmの川で、計画にあたっては、建設協議会が設置され住民の意見も取り入れながらの出発です。もともと前述のように生物の生息の可能性を探っており、時代も身近に自然を呼び戻す事の必要性が叫ばれ始めていたので、「自然」を全面に出した親水公園の整備とすることとなりました。

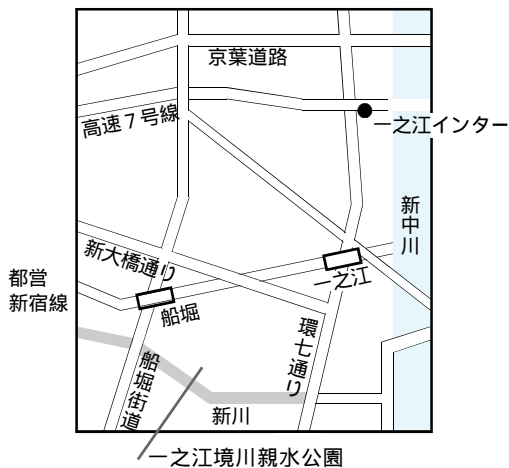
この親水公園のテーマが「野の川の再生」でした。

### 「野の川」のイメージとギャップ

さて、「野の川の再生」をコンセプトに一之江境川の建設が始まりました。生物の生息を意識した環境造りが随所になされ、平成7年4月一部オープンの運びとなりました。一之江境川は新中川より取水し、浄化せずにそのまま原水を流しています。よって、魚をはじめ多くの水生生物は原水と一緒に流入してくる・・・筈です。しかし、どんな生物が、どの程度流入し、この川で生息するのか、何の保証もないし推測する術もなかったのです。

行政が「魚が生息する親水公園」を造成し住民に提供するのは、オープン時に川面に魚影が無くては様にならないのです。安易ですが、「親水公園の造成」+「魚の放流」=「魚が生息する親水公園」の計算式に基づいて水生生物が放流されま

## 【一之江境川親水公園】



一之江境川親水公園

した。コイ・フナ・メダカ・タイリクバラタナゴ・アメリカザリガニ等々です。担当者レベルでは「野の川」にはザリガニやメダカ、ドジョウ等の小魚が生息すれば十分で、子供たちがザリガニ釣りや魚捕りを楽しむ風景がよく似合う川でありたいと強く感じていましたが、小魚やザリガニでは川面に魚影が見えません。色物（錦鯉・金魚）こそ放流しませんが、比較的大型のコイ・フナを多く放流したのは住民に魚の存在をアピールするためという行政の思惑も絡みました。しかし、これが「野の川」からは少し違った方向へと進んでしまう事となりました。

それは放流したコイ・フナが釣りに

最適の型だったのです。オープン後、目立ったのは「ザリガニ釣りの子供達」ではなく「コイ・フナ釣りのおじさん達」だったのです。「野の川」が一転「釣り堀」と化してしまったのです。勿論、おじさん達の釣りがいけないというわけではありませんが、やはり「野の川」のイメージからは大きなギャップを感じたのは、私だけではなかったはずです。

### 魚の大量死がきっかけに！

そんな中、一つの事件が起きました。オープンから半年程が過ぎた晩秋の頃でした、一之江境川で魚が大

量に死んでしまったのです。原因は水質にあることは明らかでした。一之江境川の取水口は東京湾からも近く潮の干満の影響を受け、特に冬季を中心に塩分濃度が上がります。最大では2%にもなるのです。急激な塩分濃度の上昇が、淡水魚を中心の放流魚達には耐えられなかったとの疑いが最も高かったのです。また、青潮の流入による酸欠の可能性も考えられました。

どちらにしても、この事件を期に安易に魚を放流できないとの認識ができあがりました。おかげで、一之江境川の生物調査に少ないながら予算も付き、ビオトープとしての本格的な運営が全線オープンした平成8年度より始まることになりました。

#### 江戸川区環境促進事業団

昭和55年4月に発足。

事業概要：区内の各親水公園、総合レクリエーション公園、行船公園、ポニーランド、水上バス等の施設整備・管理運営。

〒132 東京都江戸川区中央1-4-1 (江戸川区役所内)

TEL:03-3652-1151 FAX:03-3652-1550